※ 養和会グループの取組みをこの誌面にてシリーズでご紹介いたします。

地域に寄り添い、もうすぐ100年

ー 心と体のリハビリテーションー

近年、高齢化が急速に進み、介護状態を予防して充実したセカンドライフを送りたいと考える方が増えています。誰もが気軽に楽しめるボッチャなどのユニバーサルスポーツを身近なスポーツとし、自身の健康に役立てている方も多くなっています。昭和5年、山陰で最も古い精神科の病院「米子脳病院」を開設し、今年で93周年を迎えた養和会グループ（鳥取県米子市）は、そうした地域社会や時代の流れに寄り添い、地域と共に歩んできました。

専門性豊かな人材を育てる

精神疾患や認知症など、さまざまな疾患と向き合う人たちを支えるスタッフを育てることが養和会の礎であり、雇用環境も時代に沿って整えてきました。専門性を高める支援として資格取得制度を設けたことで、無資格で入職しても制度を利用して働きながら資格を取得したスタッフや海外からの実習生として働いているスタッフもいます。また、スタッフを集める目的で設立した野球部からは、プロ野球選手（松本直晃）が誕生しました。現在も変化に強く挑戦し続ける養和会は、こうしたスタッフによって支えられています。

切れ目のない医療・介護・福祉サービス体制

予防、入院から退院、その後の社会生活において、ご利用者に寄り添いながら自分らしい生活が送れるよう支援しています。その中で、養和会が掲げているのが「メンタル」「認知症」「フィジカル」に対するケアを３つの柱とする「心と体のリハビリテーション」。養和会の強みは、このリハビリテーションを展開するためにグループ内で連携していることにあります。外来から入院、または、退院後から通院、通所等、その人にとって適切なサービス提供につなげ、切れ目のない医療・介護・福祉サービスを提供できる体制を整えています。

一人ひとりが輝ける場所

最近話題になるのが、グループ内にあるメディカルフィットネスセンターCHAXに通っているパラアスリートを目指す若者の姿。養和会職員である角佳樹は、所属するチームが車いすラグビー日本選手権大会にて優勝しました。同じく養和会職員である森卓也は、世界ローイング選手権のパラローイング日本代表選手として選ばれるなどしています。養和会は、障がい者の活躍できる場を見出だし、一人ひとりが個々の可能性を引き出せるよう支援し続けます。

養和会グループHP →